

に基づき、総力を挙げて取り組んでまいります。

また、政策の推進については、各種の事業計画や予算に基づき、職員の力に依るところが大であり、寸時の停滞も許されないと考えてあります。私は、先に定めた「改善への五則」にあります「笑顔のあいさつ」「スピード」「知恵と汗」「具体化への努力」「夢に向けた挑戦」をさらに徹底し、住民本位の窓口対応や政策向上に向け、より強力に推進してまいります。

平成20年度予算の大綱

平成19年度は、地方交付税と臨時財政対策債を合わせて45億1900万円が見込まれ、合併による財政措置等により普通交付税交付額は当初見込以上に交付されることになりましたが、人件費、扶助費、公債費の義務的経費は42億3600万円の決算となる見込みであります。

平成20年度予算編成に当たっては、住民の要望を十分に

しん酌し、フル・デュー・プラン推進に積極的に対応するとともに、分庁方式による事務事業の簡素化や事業の峻別、受益者負担の適正化など効果的・効率的な施策の推進に努めることといたしました。

歳入面については、普通交付税が前年度に比べ1700万円増の37億6000万円、交付税の減額分を補う臨時財政対策債は前年度に比べ1400万円減額の2億1900万円となっております。

このような中、継続事業の実施や合併前の差異の解消のほか、頑張る地方応援プロジェクトなどに重点をおいた予算編成といたしました。ハード面では道路新設改良をはじめ、港湾整備事業、基盤整備事業、林道整備事業が主なものとなっております。ソフト面では、高齢者対策事業として、ともしび隊活動事業、子育て支援としての延長保育、活性化対策では、お魚祭りの開催など町民の意識高揚に努めてまいります。

また、平成20年度から新たな医療保険制度として、鹿児島後期高齢者医療広域連合に加入し、町では特別会計を新設して後期高齢者医療事業が開始されることとなります。この結果、一般会計当初予算は総額で85億3700万円となり、平成19年度当初予算と比較しますと、5300万円の増額となったことから、財源不足を補うため、財政調整基金2億5000万円を充てたところであります。また、各特別会計を含めた予算の総額は、131億2000万円となりました。

具体的な施策

まず、本町発展の源となる産業振興についてであります。農業は、現下の農薬混入冷凍食品問題により消費者の食に対する安心・安全への要求は更に高まっており、生産基盤や農村環境の整備および環境にやさしい農業の推進、作物の生産管理徹底が必要となっております。一方、高齢

化に伴う生産活動の省力化促進、担い手の育成も急がれるところであります。そこで、蔵之元地区基盤整備事業、山寺地区基盤整備事業、口之福浦地区基盤整備事業、中山間地域総合整備事業東南部地区、土砂崩壊防止事業（須舞取地区）の推進を図るとともに、山寺地区畑かん施設改良、平尾地区パイライン整備の計画調査を行います。また、片側地区の甘夏選果機導入により、生産出荷を効率化し、ブランド確立を目指してまいります。

林業は、林道五郎地平線と白瀬線開設事業を推進するとともに、イノシシ等有害鳥獣対策にも取り組んでまいります。

水産業は、三船漁港整備交付金事業を完成し蔵之元漁港の効果調査に入ります。町単独事業では大島漁港、汐見漁港の整備、黒崎漁港の調査設計事業により、生産基盤の強化を図りながら、引き続き後継者対策や離島漁業再生支援交付金事業による獅子島地区

漁業の活性化を支援いたします。

商工業の振興は、観光協会や商工会との連携を図りながら活力ある商店街形成を支援してまいります。また、各種大会の賞品として地元商店の商品券利用も積極的に図ってまいります。

交通網

県道は、長島宮之浦港線本町地区の整備促進や平尾地区の採択、葛輪瀬戸線本浦地区の整備促進、さらに川床平尾線の整備促進について働きかけを強めてまいります。

町道は、懸案であった萩之牟礼茅屋線の工事着手を図ります。さらに、平尾浜渡線、山門野汐見線を交付金事業で、北方崎線、白瀬本浦線、川床梅ノ木山線等町単独事業の路線については、合併特別債、過疎対策事業債、辺地対策事業債を活用し、生活環境と併せ産業基盤の基礎づくりを図ります。

港湾は、継続事業として本